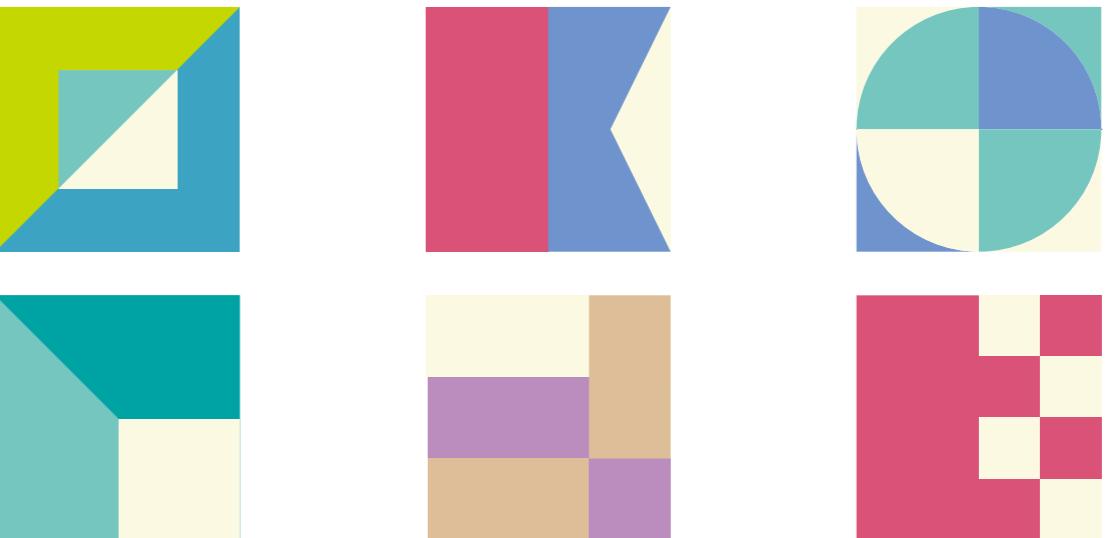


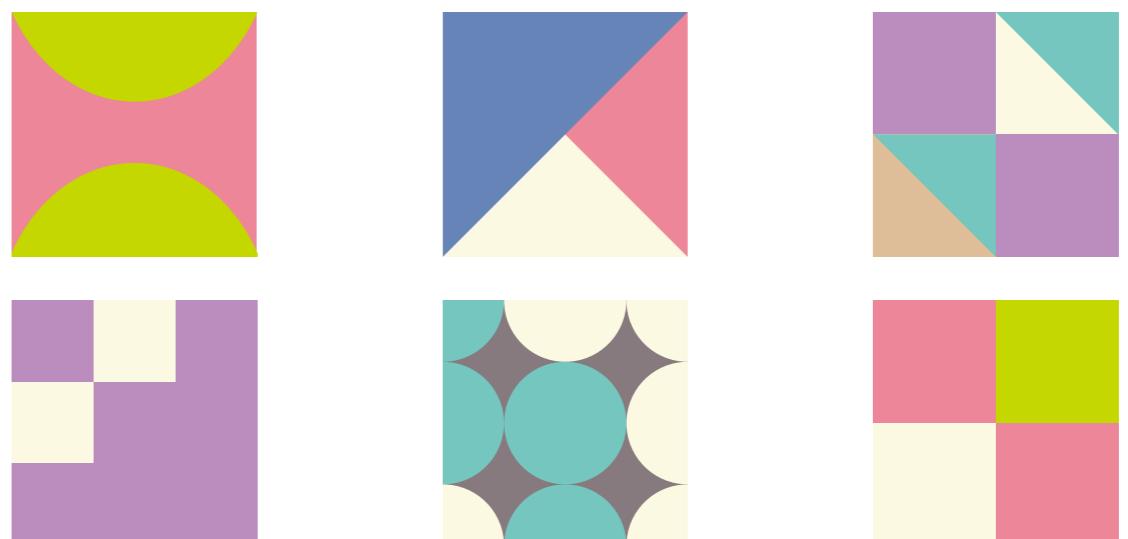
OKINAWA ART&CULTURE FESTIVAL 2017

# 第46回 沖縄県芸術文化祭



## 書道・写真・美術

公募展



OKINAWA ART&CULTURE FESTIVAL 2017

主催：沖縄県・(公財)沖縄県文化振興会

共催：東村・東村教育委員会・恩納村・恩納村教育委員会・九州文化協会・沖縄県文化協会

後援：沖縄タイムス社・琉球新報社・NHK沖縄放送局・沖縄テレビ放送・琉球放送・琉球朝日放送・エフエム沖縄・ラジオ沖縄

(公財)沖縄県文化振興会 TEL. 098-987-0926 URL. <http://www.okicul-pr.jp/kengeisai/>



煌めく、アートとの出会い

第46回

# 沖縄県芸術文化祭

## 展示部門 書道・写真・美術 公募展

本展

### 沖縄県立博物館・美術館

平成29年11月18日(土)~26日(日)

開館時間 / 9:00~18:00(入館は17:30まで)

※金・土曜日は9:00~20:00(入館は19:30まで)※11月20日(月)は休館日

写真選抜展

### 東村立山と水の生活博物館

平成29年11月28日(火)~12月10日(日) ※12月4日(月)は休館日

### 恩納村博物館

平成29年12月12日(火)~12月24日(日) ※12月18日(月)は休館日

## 舞台部門 重要無形文化財保持者等公演

竹富町公演 竹富町離島振興総合センター(西表)

平成30年1月28日(日)

西原町公演 西原町さわふじ未来ホール

平成30年2月24日(土)

## CONTENTS

主催者あいさつ	1
書道公募展	
審査講評・各受賞者作品	2
書道公募展出展作品一覧	6
写真公募展	
審査講評・各受賞者作品	8
写真公募展出展作品一覧	12
美術公募展	
審査講評・各受賞者作品	14
美術公募展出展作品一覧	18
年度別展示部門入賞者一覧	20

沖縄県知事  
翁 長 雄 志



はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら

第46回沖縄県芸術文化祭の開催にあたり、御挨拶を申し上げます。

沖縄県芸術文化祭は、県民の多様な文化芸術活動を奨励し、文化の向上と発展を目的として、沖縄本土復帰の年から開催され、今回で46回目を迎えます。

今年度も、多くの県民の皆様から、書道、写真、美術の各部門合わせて、575点もの作品が寄せられ、厳正な審査の結果、298点の作品が入選しました。

沖縄県知事賞、沖縄県文化振興会理事長賞、奨励賞、新人賞を受賞された皆様並びに入選された皆様、誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

県民の皆様には、入選作品が展示されている県立博物館・美術館に是非足を運ばれ、豊かな感性あふれる作品の数々を御堪能いただきたいと思います。

本展終了後は、東村立山と水の生活博物館及び恩納村博物館において、写真選抜展を開催いたしますので、お近くの皆様は御来場いただければ幸いです。

また、西原町及び竹富町においては、重要無形文化財保持者の皆様を中心とした琉球舞踊、組踊、沖縄芝居などの舞台公演を開催いたします。沖縄が誇る伝統芸能の魅力を多くの皆様に感じていただきたいと思います。

沖縄県では、沖縄21世紀ビジョンにおいて「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島」を目指すべき将来像として掲げております。今後も、将来像の実現に向け、県民の皆様の多様な文化芸術活動を奨励するとともに、広く芸術鑑賞の機会を提供できるよう取り組んでまいりますので、県民の皆様の御協力ををお願いいたします。

結びに、沖縄県芸術文化祭の開催にあたり、御協力いただきました審査員及び関係者の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、御来場の皆様の御健勝を祈念申し上げ、挨拶といたします。

公益財団法人 沖縄県文化振興会  
理事長 仲田 美加子



ぐすーよー ちゅううがなびら。

第46回沖縄県芸術文化祭公募展を開催するにあたり、ごあいさつを申し上げます。

沖縄県芸術文化祭は、県民の皆さまの多様な芸術文化活動の奨励と優れた芸術作品の鑑賞機会の提供を通して、県民文化の向上に寄与することを目的に昭和47年度から毎年開催しており、今年で46回目を迎えます。

今年も多くの魅力的な作品が、皆さまのご来場をお待ちしております。また、例年好評をいただいている、東村及び恩納村での写真選抜展も開催いたします。より多くの皆さまが作品の魅力を楽しんでくださる機会となれば幸いです。

本展期間中は、入賞作品及び入選作品の展示、審査員と無鑑査の作品展示、さらには、体験教室や審査員の先生方によるギャラリートークなどの場を準備しています。また特に、今回は沖縄県高等学校文化連盟のご厚意のもと、高校生による舞台発表の機会も実現いたしました。どうぞ楽しみにしていてください。

それから、県芸術文化祭の取り組みの一つとして、平成26年度から「沖縄ミニエンナーレ」と題し各市町村や県内の団体等が行う事業を連携行事として募集しており、今年度は10月から来年3月までの期間に県内で開催される多くのユニークなイベントと連携し開催する運びとなりました。今後も皆さまの身近にある芸術文化をご紹介させていただくことで、沖縄全体の芸術文化に対する機運を高めていきたいと考えています。

沖縄県文化振興会は、みせる・つなげる・ささえる・つくる・そだてるの五つの柱で文化芸術活動を支援して参ります。

結びに、情熱的に審査して下さいました先生方をはじめ、作品応募に挑戦くださった皆さま、ご支援いただきました関係者の皆さんに心より感謝申し上げますとともに、沖縄県芸術文化祭および「沖縄ミニエンナーレ」が、本県の文化の祭典としてより充実したものになるよう、今後とも力を尽くしてまいります。

# 第46回 沖縄県芸術文化祭

# OKINAWA ART&CULTURE FESTIVAL 2017

# 書道公募展

## 書道総評

書道部会の審査は、例年通り沖縄県立博物館・美術館のバックヤードで行われ、今回も別室で審査状況をモニターで同時に見ることが出来る公開審査である。

9時15分から審査の為のミーティングをして、30分から出品作品の出来栄えを把握する為に作品の総見をした。審査員一人欠席で9名で当たる。

今回の応募点数は奇しくも昨年と同数で142点である。漢字95点、かな26点、篆刻15点、調和体6点であった。

午前10時から一点一点審査員の目が作品に注がれ、入選に値すると思う作品に挙手をするという形式で審査に入る。

午前中で142点の作品の審査が終了し昼食を取る。

午後に得点別に集計された結果を見て、入選ラインの審議に入る。去年は123点の入選で展示に苦慮したとのことで、今回は115点の入選をと事務局からの提案で115点が入選と決定する。入選率は80%である。

入賞の鑑別に入る。得点7点以上取った44点を総見して、賞に値すると思う作品を「賞候補」の発声で推薦することとし、漢字4点、かな3点、篆刻1点の8点が推薦された。推薦された作品を壁面に掛け、持点6で投票した。集計された得点で下位3点、新人賞にすると決定し、3人の中に入賞者が2人居り、眞の新人に濱川綾子さんに決定する。残った5点を持点3点で投票した結果、上位2人が9点の満票であったので、下位3点は7点と8点で奨励賞に決定、満票の2点を得点の多い作品を県知事賞に決定する旨決定し、投票の結果沖縄県知事賞に長堂加代子さん、沖縄県文化振興会理事長賞に島津和美さん、奨励賞に神里和子、新垣恵律子、當間秀美さんが決定されました。

受賞された皆様、誠におめでとうございます。

今回入賞に至らなかった方も、気を落とされず捲土重来の気持ちで書に勤しんで下さい。書は文字を媒体に心象の表現です。技法も大事な要素の一つですが、心の使用が一番大事です。楽しい作品が多数出品されることを希望します。

書道部門審査員長 豊平 峰雲



## 沖縄県知事賞

### 「爲趙貢夫題牧山子畫冊 他二首」



長堂 加代子

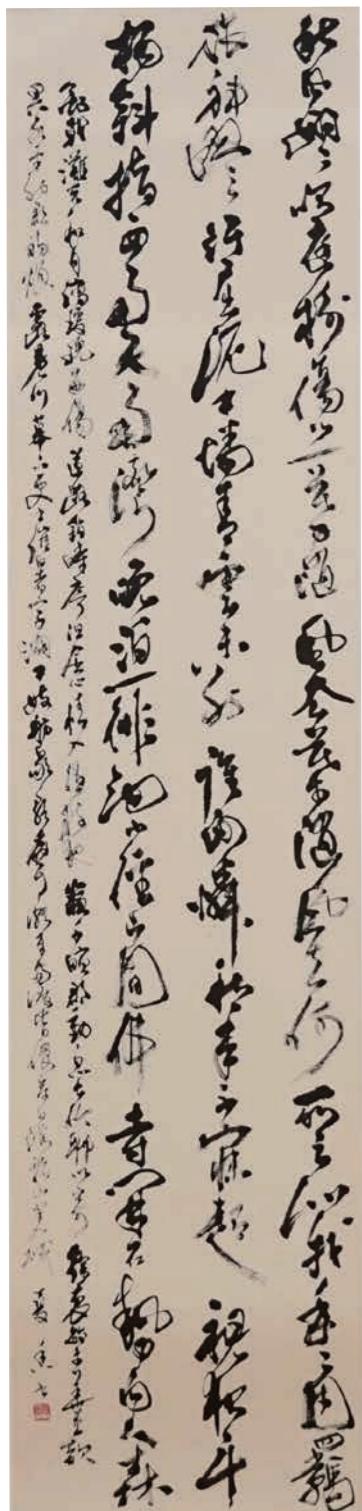
「趙貢夫の爲に牧山子の画冊に題す」ほか二首、翁方綱の詩、180字の多字数作品である。

作風は大字を3行に後半を小字2行に纏めてあり、尚行間を罫線を引いてある。

作品は文字群の処理が楽しく、文字の大小、瘦肥、潤渴等が自然のまま表現されている。文字の顔、「字面」を最大限に書いたことが見る人に共感を得たことと思う。

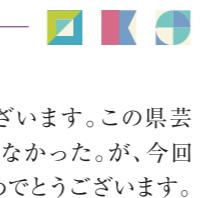
又、清涼感、律動感もともない、あたかも小川を流れる清流を彷彿させ、観る人を楽しませてくれる作品になった。

講評担当者 豊平 峰雲



沖縄県文化振興会理事長賞  
「秋夜長 他漢詩三首」

島津 和美



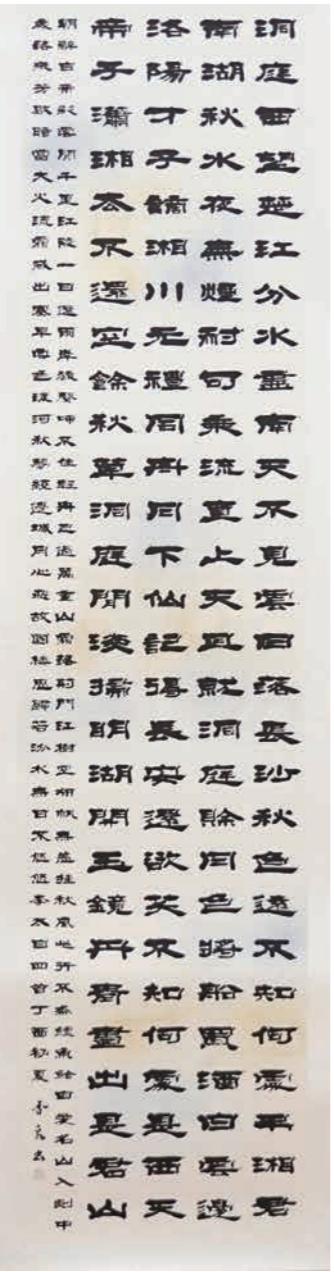
この度の沖縄県文化振興会理事長賞受賞おめでとうございます。この県芸展に向けて取り組み、毎年あと一歩の段階で賞にはとどかなかったが、今回は初受賞にして新しく命名された大きな賞の受賞、改めておめでとうございます。

からし色の料紙に3行の大きな文字群、2行の小さい文字群を配した作品、これまでよく書き慣れた構成である。文字の配列、潤滑の変化、文字の大小の適切な変化、線の太細を出すための筆圧の変化等、書作の要件を無理なく自然体にして適格に表現の出来ている事が高く評価されたと思います。

欲を申しますと、①大きな文字群の1行目の「隨」にもっと幅のある文字がほしかった。②大きな文字群の流れが直線的に成りすぎた感がある。横への張りと動きがほしかった。

これから作品構成の基礎となる古典の研究が大切になります。「王鐸」「米芾(蜀素帳)」等を作品に活かすと新たな雰囲気の書作につながります。今後ますますのご活躍を期待します。

講評担当者 大城 碧濤



奨励賞  
「李太白詩 四首」

新垣 恵津子



「奨励賞」おめでとうございます。

この作品は、漢代の隸書(隸書は大別すると古隸と八分書の二種類になる)の八分書を基盤とし、大字四行、細字二行で構成されている。八分書の特徴は、幅広、扁平で横への働きかけを主張し、字間、距離を大きく離し、余白をあける一方、行間を詰め横への連繋をとり合う事により統一感が増し、豪華さが形成される章法である。

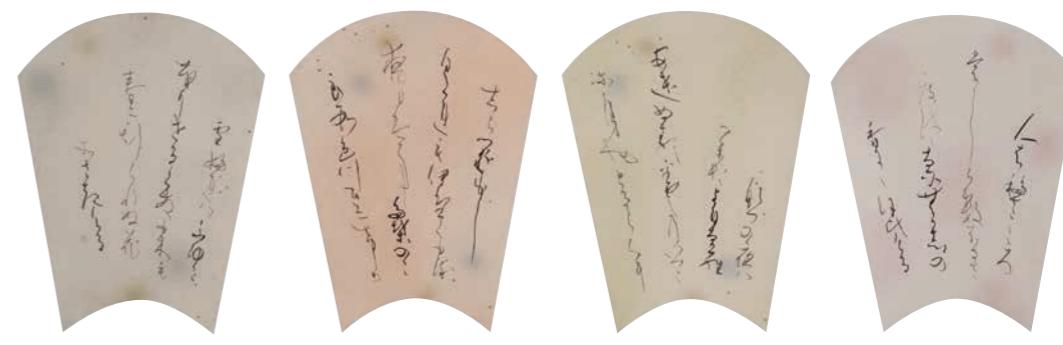
この作品は、まさしく八分書の章法に基づいた作品で、大字四行は力強く規律正しく並び、整然とした美を生み出し、細字二行が脇役とし支え合い、互いの相乗効果を醸し出している。作品全体として墨量の変化もあり、細部まで神経が行き渡り、紙との相性も良く作品を際立たせている。

今後更なる研鑽を積み精進することを期待する。

講評担当者 運天 南暘

奨励賞  
「四季の歌」

當間 秀美



これまで長年の地道な精進の賜物、奨励賞受賞おめでとう。

この作品は、縦長の扇面4枚に四季の和歌を1首ずつ書き横に並べた作品構成になっている。かな書ならではの散らし書きの優美さ、楽しさは、観る者をかな書美の世界へ誘う。4枚それぞれ違った散らし方にして単調にならないような工夫、間を取りながらも全体の行の流れと調和も考えられ、上手くまとめられている。かな書ならではの表現と言える。扇面の作品づくりを心得た安定感のある書きぶりと、丁寧な運筆にも好感が持てる。ただ、使用料紙は、書かれた和歌の春・夏・秋・冬に見えたてた色と思われるが、色彩効果の面で少々もの足りなさを感じるが…。

何はともあれ、今後も幅広く種々の事に刺激を求めるながら感性を磨き、より一層の研鑽を重ねて下さい。

講評担当者 小杉 純南

奨励賞  
「雪中尋梅」

神里 和子



全体として、よく書込みがなされています。行間の白が美しい。よどみがなく流れしており、心地よいリズムを感じます。

特に二行目の帰の字から明の字までの線の太細、文字の大小の変化や筆使いに軽快感を感じます。

研究としては、行末のおさめ方について、蘭亭や王鐸等の作品を参考にさせていただくと良いかと思います。

受賞、おめでとうございます。 講評担当者 我喜屋 明正



新人賞  
「賀 歌」

濱川 綾子



この作品は、小字・多行の横披作品であり、大字作品とは一味違う「かな書」の魅力を印象づけている。

まず、上段右の書き出しが静かに始まり、それに続く3分の1くらいから徐々に行の流れに変化をつけ書き進め、下段3分の1くらいまで次々に行を展開してゆき、その後3分の2位の所を全体の山場としてしっかりと行書きし、最後はまた静かに収めて終る。そこには上下2段の変化と共に全体の一体感にも心配が求められる。あたかも心地よい交響曲を聞いているかの如くに観る者に訴えかけて来るようだ。

これだけの長丁場をまとめるには、やる気と根気・集中力も必要である。所々、まだ線の硬さも見えるがよく書き切った。新人賞に相応しい力作である。

地道に1歩ずつ、今後の精進に期待するところ大。おめでとう。

講評担当者 小杉 純南



# 写真公募展

## 写 真 総 評

今年度も、モニター室に居られる出品者の心臓音が聞こえてきそうな中、総見後10名の審査員による審査が始まりました。厳選感漂う空間を経て、最終的に11点の中から県知事賞他各賞が決定いたしました。

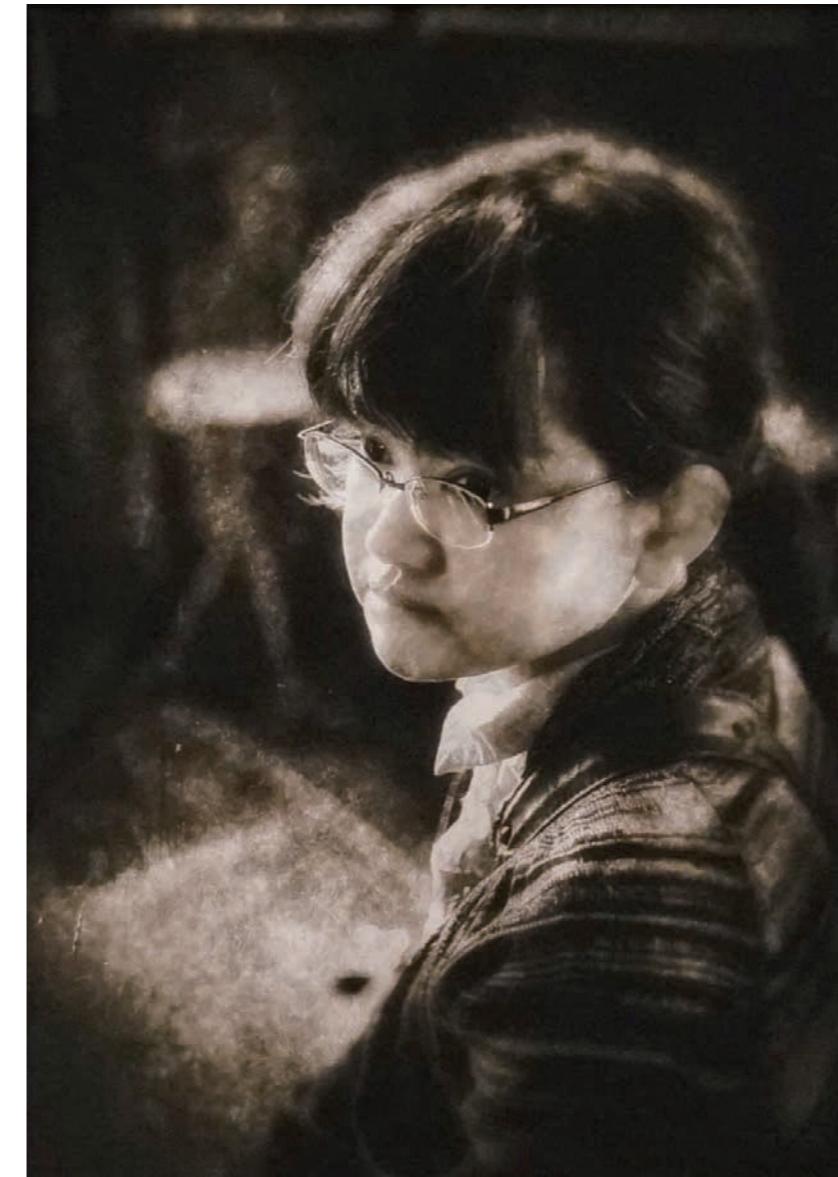
県知事賞は、女の子のポートレートをセピア色にすることでノスタルジックな雰囲気の作品と仕上げ、そこへレタッチ処理による幻想的な効果を加えることで作者の持つイメージに上手く仕上がりました。

ここ数年の入賞作品はデジタルによる表現が多く、今年も上位の作品がデジタル処理による作品となりました。デジタルレタッチも段々と漸進が見られ、デジタル化が顕著な創作の形と成りつつあります。

総体的に今年は作品力のインパクトが弱いように感じ、又作風もパターン化した傾向に見受けられました。もう少し写野角を広げて被写体を探求することを望みます。

作品を創る行為は、自己のアイデンティティーを模索することに他ならないことと知り、被写体探しを含め常にアンテナを張ることが必要と認識する事だと思います。個人的には、力強い動物写真や深く突っ込んだローカル作品が出て来る事を願います。

写真部門審査委員長 東 邦定



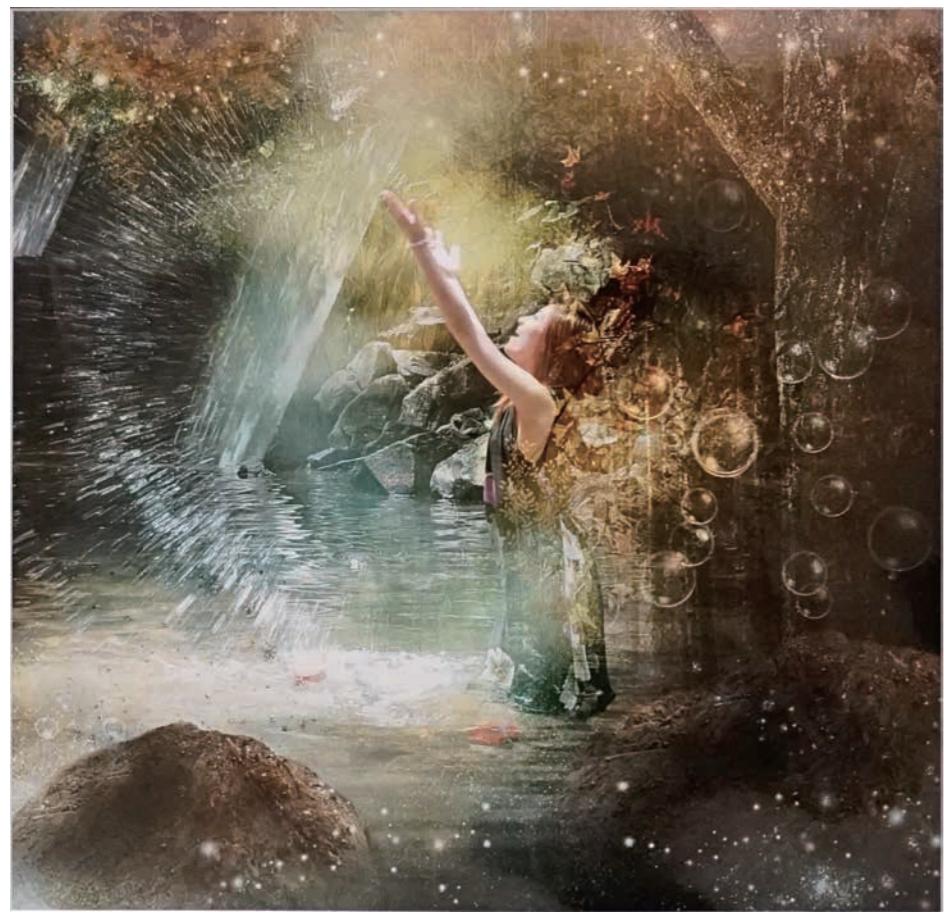
**沖縄県知事賞  
「肖像」**

宮義 洋史

本年度総応募数319点の中から選出された県知事賞作品はこの「肖像」であった。作者の宮義氏は、特にここ2、3年活発に本展に応募しており、また数回に渡って入選、入賞を果たしている強者であるが、最高賞である県知事賞は初の快挙である。

古典的ともいえる確かな構成力に加えて、デジタル加工処理(おそらくHDR処理等)で程よく味付けし、ノスタルジックなセピアに調色し、まるで19世紀の後期に現れたピクトリアリズム写真のような風合いで作品を仕上げた。格調高い美意識と、細部を省略することによってそのテーマ(少女の健気さ)を強調した上品な作品である。

講評担当者 仲本 賢



沖縄県文化振興会理事長賞  
「fantasy」

新城 直美

今年は、総体的にデジタル写真のレタッチによる加工技術が以前と比べ格段に向上しているように感じられた。受賞したこの作品はレタッチによるストレート写真の画像修正の範囲を超えて、取り入れた画像を素材としてテクスチャーを重ね、絵画的な作画の可能性に踏み込んだ点にある。多くの画家が制作の過程で写真画像を多用するように、写真家が絵画的な誇張表現をプリントに取り入れることで自ら内包したリアルさを引き出す、写真と絵画の相補的な関係は今に始まないことではない。

作者は水辺の空間を表現空間の「場」とした。水辺はあらゆる神聖な場所がそうであるように、潤いと浄化、心の安らぎを人に与え、生命力を回復する力を持っている。

作者のこれから制作の拡がりに期待したい。

講評担当者 田中 瞳治



奨励賞

「更くる」

我喜屋 功

「ふけにくるわが身の影を思ふ間にはるかに月のかたぶきにける」—新古今和歌集。  
夜の時間、季節の移ろい更け行く寂しさは皆同じです。人の更けいくもまたかくのごとし、などと老いに落ち込んだり、滅入る雰囲気とは無縁なお三方の表情。それは見る者にどこか安らぎを感じさせます。雲南省の女性、ハノイの男性、作者は何度か海外撮影旅行の経験をおもちで、カメラ意識のない表情を捉えるテクニック、それが伺えます。パソコンのソフト技術で「これでもか」と幾度にもレタッチを施した作品が多い中で、ストレートな作品仕上げが逆に清しさを感じます。

受賞おめでとうございます。

講評担当者 島元 智



奨励賞  
「無事を祈る」

花城 雅孝

奨励賞の受賞おめでとうございます。

大海原へ漕ぎ出す、勇壮なハーリー舟の場面を見事に臨場感のある写真に切り取って、仕上げていると思います。

オキナワブルーの色彩も鮮やかで、飛沫、褶(ウェーク)位置、有様等シチュエーションをうまく取り入れたインパクトのある写真です。ローアングルならではのいいショットになっています。構図もよくまとまって、賞にふさわしい作品だと思います。花城さんの尚一層の飛躍を期待します。

講評担当者 上原 健次



奨励賞  
「ユメノナカ」

與儀 美奈子

奨励賞受賞作品『ユメノナカ』は51ページのカラー写真集である。一枚の写真を作品とする単写真、複数の写真を組み合わせて作品とした組写真、数十枚の写真を製本し表題をつけた写真集、または立体作品、そのような応募作品の中で、特に写真集の作品は審査も難しいが、作品制作に於いても、写真撮影の力量と感性、デザインのセンス、編集力、文章力、等々が要求される。

作品『ユメノナカ』は作者のお子様を主体として、子育て、自然や小さな生き物達との触れ合い、祖父祖母が暮らす島の祈りある風習への参加、その他、普段の子供達の何気ない日常の出来事が、気負いのない目線で写真の持つ記録性と表現力、そして作者の心情が簡潔な文章によって愛情深く、この写真集には綴られている。

一枚一枚の写真は、ユーモアに溢れおり、見る側の記憶と何とか繋がってくるような、ふと内省へと導かれる精神性を持った作品となっている。

講評担当者 根間 芳和



新人賞  
「夏時雨」

親富祖 勝枝

雨足が聞こえてくる。旅先の北海道函館市の風景。この組写真は情景を多角的な角度で捉えている。雨宿りのズズメを望遠レンズで、市電のライトで光る路面を目線より高く広角レンズで、歩道の傘の群れを建物の屋上から、と変化に富む。この日の雨に対する想いを人、野鳥、電車の被写体で表現したのも飽きない。さらに三枚の写真を斜めに配置した構図は際立つ。「風景写真は詩でもある」と語る先輩写真家もいる。作者は晴れた日の撮影旅行を期待していたと推測するが、雨だったその日を詩が思い浮かぶように表現している、といえよう。

作品とその作品のタイトルを合致させ、見る人に感動を与えることは困難である。作品名を「夏時雨」としているが、閃いた言葉に映像を一言でまとめる繊細な感覚をみた。審査当日の公開審査でもお解りのように最終審査まで奨励賞作品と競い新人賞に輝いた。

講評担当者 山城 博明



第46回 沖縄県芸術文化祭  
OKINAWA ART&CULTURE FESTIVAL 2017

# 美術公募展

## 美術 総評

今回の美術部門の応募総数は114点、内訳は平面100点、立体14点で昨年より3点増えた。立体は6点の増である。審査の前の「総見」は作品全体を掌握するため約40分かけて作品をテンポよく確認した。入選、入賞経験のある作品と共に、初出品と思われるものも多く新鮮な印象を受ける。さらに、作品のレベルが向上し立体においてそれが顕著にあらわれている。審査員はときおり離席して支持体や画材、表現テクニックを画面間近で注視して意見を交わした。

いよいよ公開審査に入る本展のこの方式は、全国的にあまり例がないと思われる。審査する側もされる側も適度な緊張感を覚える。充分な説明責任をはたすため公平で厳正な進行と判断を強く意識してのぞんだ。その過程において作品のテーマ性、画面構成、表現技法・技術、さらに作者の思いや心象をどう読み解き受け止めるか、審査員それぞれの視点から意見交換がなされた。必要に応じて今後の創作活動におけるアドバイスも併せて行われた。公開審査は貴重な研鑽の機会であり、多くの出品者が参加して良い刺激を受けるよう要望したい。

審査は10名の審査員の過半数(6名)の挙手により、69点の入選が確定した。次に賞候補として推薦があがった25点を1回目の挙手で15点、2回目の挙手で7点に絞り、さらに5回の投票により県知事賞以下6点の入賞が決定した。時間を要するが、複数回投票で公平で責任ある審査がなされた。

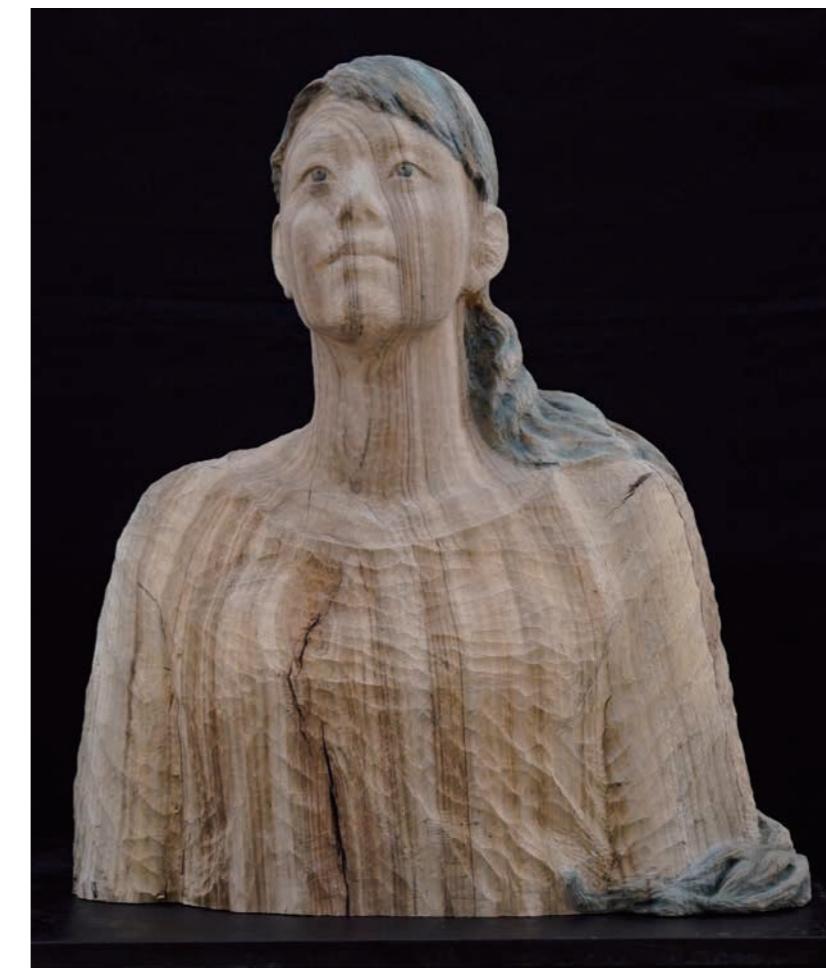
字数の都合により各賞の講評は担当にゆだねることとし、県知事賞の小泉ゆりか氏の作品「生きるという事」について若干述べてみたい。木彫の胸像は本展ではまれであり、新鮮で印象に残った。直立をおもわせる穏やかな動きにあってわずかに頭部が上を向き、その視線は遙か遠方に想いをはせているかのようである。内に秘めた芯の強さと、何事かを強く決意した人間のゆるぎないエネルギーが波動の如く伝わってくる。荒削りの処理や木目さえも表現にとりこんで作品と一体化させた秀作である。県立芸大2年在学の二十歳、初出品で県知事賞の快挙を祝福するとともに、今後の活動に注目したい。

審査後の各々の意見として、評価すべき点と今後の課題について様々な指摘がなされた。評価点としては、作品は全体に質が高い。イメージ、構成力、表現の工夫がなされていた。このままのレベルを持続してもらいたい。新鮮な感じを受けた、表現のバリエーションが豊富で追及し心やテーマの深まりがあった。公開審査に相応しい審査員の討論がなされ意気込みを感じられた、等。

課題としては、小品に留まることなく大作に挑む気概がほしい。額装は作品と表裏一体であり鑑賞に堪えうる仕上げを意識してもらいたい。版表現、具象作品の出品増と頑張りを希望する。ベテランの作家は安定した力を発揮していたが、更なる展開を期待したい。

最後に、前述の意見を踏まえより充実した県芸術祭を目指したいものである。

美術部門審査員長 屋良 朝彦



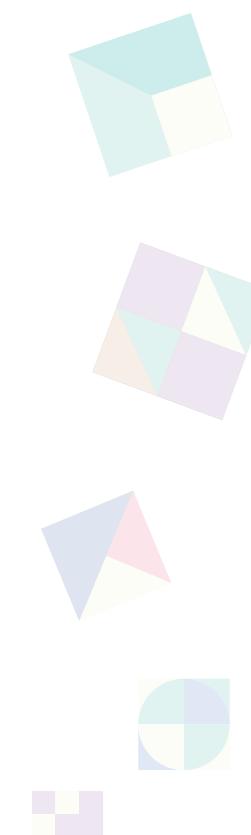
沖縄県知事賞  
「生きるという事」

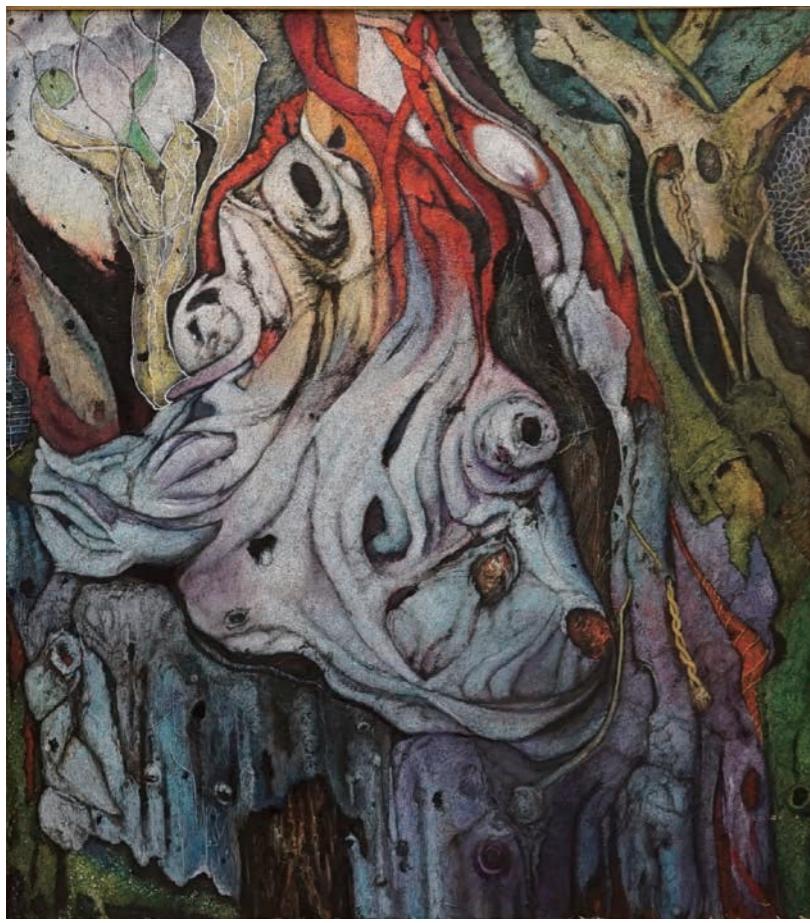
小泉 ゆりか

清新な作品である。若々しい女性が上向き加減にたたずんでいる。自分の進むべき方向を自覚し、迷いなく目指している清楚な像が、審査員に働きかけた。作者は審査終了後に聞いてみると、まだ20歳の大学2年生であるという事だった。きっとこの作品のような人なのだろうと思えた。

作品自体は初心者として技法的にはおぼつかないところも見られるが、丁寧な仕事で隅まで気を使って彫られている。特に頭部の細やかな彫り、ダイナミックな髪の流れに感心した。腕や胸はシンプルに作られ、のみの彫り痕でボリュームを出している。頭部と対照的なその構成が作品に変化と安定を与えている。これからこの作者がどのような目標を立て、どのようにのびて行くか期待を持って見守って行きたい。

講評担当者 西村 立子





## 沖縄県文化振興会理事長賞

## 「根性」

伊波 則雄



ガジュマルをモチーフとしたこの作品は、生命の鼓動を感じ取れる表現と画面全体に描かれた圧倒的な構成力のある秀作である。太く重厚的な幹を正確に力強く表現しているわけではなく、画面全体におけるバランスや感性からの色彩表現は感受性における内面からの放出であり、精密なディテールは毛細血管のように作品に命を吹き込んでいる。その一つ一つに意図が感じ取れる。

タイトルの「根性(こんじょう)」は強い精神力の意味だけではなく、「根(ね)」物事の根源、「性(さが)」もって生まれた性質、それは作者の作家としての投影であり、感性からの静かなる叫びでもあると感じた。

この作品は、審査開始から賞候補として推薦され、平面作品の中で特に目を引く完成度の高い作品として、沖縄県文化振興会理事長賞の受賞となった。前年度の作品より表現力が向上しており今後の制作に期待したい。

講評担当者 赤嶺 雅



## 奨励賞

## 「烈」

仲宗根 市子



無数の紙片のコラージュ。そのマチエールの上にさらに彩色を施された画面。ピンク、紫系の暖色とブルーグリーン系の寒色の補色的対比。そして、それらを活かす余白。

色彩抽象画面ではあるが、そこには、大地に根を張る大木、あるいは大海の深々とした潮流を思わせる大自然への象徴性も込められていようか。画面の枠をも越えて流れるたらかな構成の躍動感が、この作品への評価であると考える。

作家の以前の制作において、筆触激しいアクション性やマチエール厚いアンフォルメル的要素を駆使し、出身島の文化アイデンティティーを象徴表現化せんとする模索が見えた。

作家の奥に宿るその内的情動と、本作品で獲得した流動的構成の力を融合させ得た時、作家独自のオリジナリティーがより強く確立するであろうと考える。

それを投げかけて、受賞への賛辞としたい。

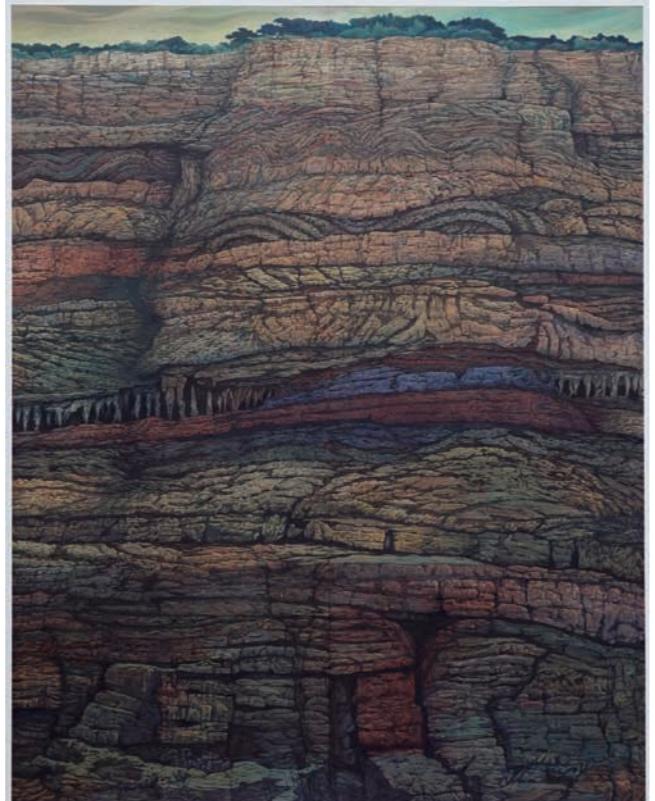
講評担当者 大城 譲

## 奨励賞

## 「地相」



與那嶺 勉



様々な表情を持つ断層地形、画面一杯に横断させ、大胆さと緻密さを兼ね備えた密度のある造形表現は見る者の心に迫るものがある。

レベルの高い応募作品の中にあって、一際目を引くものがあり、質の高さを感じさせる存在感のある作品である。

部分と全体の織り成す流動性のある画面構成は時間と空間の広がりを形成し、作者のこれまでの出品作品と一味違うものになっている。

マチエールの効果的な扱い方、画面の内部空間の広がりを暗示するかのように横に走る裂け目は作者の深層における象徴的なものを感じさせ、強く印象に残るものがある。

講評担当者 大浜 英治

## 奨励賞

## 「ティラバンタの森」



並里 幸太

以前はフラクタルな点描法でのアーバーや細胞のように像がダイナミックに蠢く抽象的作品であった。最近は具象的なモチーフ表現が入り変化してきている。激しく揺れ動く時代に翻弄された琉球人の魂の行方は何処に行くのだろうか？森深く高貴な人の魂が天に昇る所でパンタと言われる聖域が破壊されていく怒りと悲しみ。琉球王国のアイデンティティーが激しく揺れ動く内なる表現として筆のタッチに良く表れている。涙のような大きな水滴、4つの爪をもつ龍、紅型、アカショウビンはコラージュに見えるが手書きである。それらが脈略あるようにもっと強く、或いは独創性のある、若干抽象的に処理した表現にしても良いのではないかと思う。実力のある作家で今後に期待したい。

講評担当者 佐久本 伸光

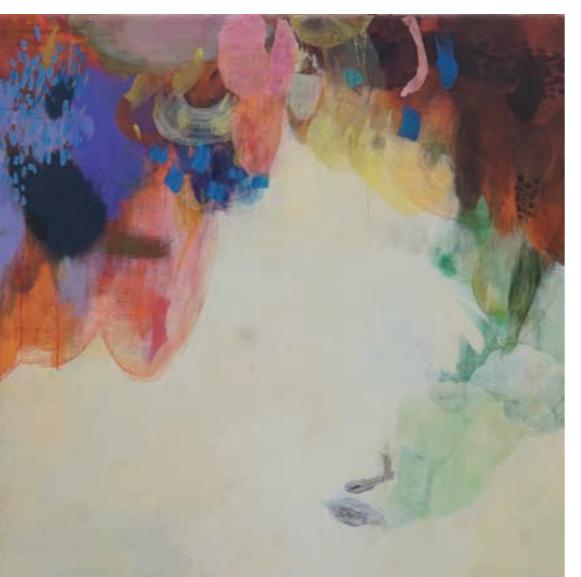


## 新人賞

## 「ひかりのつぶは いりぐち」



齋 悠記



審査会場の中でも、一際鮮度のいい作品に注目した。本展初出品の「ひかりのつぶは いりぐち」である。

さりげない日常の中で、ふと感じる世界をみごとに抽象的世界で表現している。漆喰状の白いまチエールを下地に、やわらかな光と風、そして涼しい色彩が印象的だ。軽快なストロークと透明感、大胆な構図は会場の中でも存在感がある。パステル調の色彩や、隠し色から醸し出される表現には、色気さえも感じる。これだけ単純明快な表現は、積み重ねや経年により洗練され生きてくる。そして、止める「描かない勇気」にも潔さを感じた。キャンバス4辺が丸みを帯び、それにこだわった所もテーマと調和していいし、全体的に品の良さを感じた。今後の展開、活躍に期待したい。

講評担当者 川平 恵造

# 美術公募展作品一覧

## Fine Arts

### ■審査員出展作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名
自己の積層	121x93	平面	紙・顔料インク	赤嶺 雅
鳥	110.5x90	平面	ミクストメディア	大城 讓
風景の中で	91x116	平面	アクリル	大浜 英治
夏シリーズ	250x173x70	立体	アクリル・流木・珊瑚等	川平 恵造
緹沌遊色・17	97x157	平面	コラージュ	喜久村 徳男
潮流のラピリンス	F100	平面	アクリル	佐久本 伸光
自画像	F80	平面	油彩	中島 イソ子
雲	80x120	平面	日本画	西村 立子
MY SPACE メタルシリーズ	130x160	平面	ミクストメディア	屋良 朝彦

### ■無鑑査出展作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名
Emotional／scene1.10	162x162	平面	アクリル	池原 優子
Tの肖像	90x90x45	立体	FRP	玉那霸 英人
Wandscape	185x186	平面	ミクストメディア	知念 秀幸
メガフォン	H1300	立体	鉄板	津波古 稔
LACANS	F100	平面	油彩・その他	鶴見 伸
点と位置と	196x166	平面	アクリル	與那嶺 芳恵

## ■美術 入賞作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名	市町村
知事賞 生きるという事	73x65x26	立体	木(樟)	小泉 ゆりか	那霸市
理事長賞 根 性	174x154	平面	油彩	伊波 則雄	読谷村
奨励賞 地 相	194.5x154.5	平面	アクリル	與那霸 勉	与那原町
奨励賞 烈	195x163	平面	ミクストメディア (アクリル・紙)	仲宗根 市子	那霸市
奨励賞 ティラバンタの森	180x180	平面	水彩・アクリル・墨	並里 幸太	本部町
新人賞 ひかりのつぶは いりぐち	162x162	平面	アクリル絵具・ オイル・パステル・ 糊・パネル	齋 悠記	沖縄市

## ■美術 入選作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名	市町村
涙	91x129	平面	ミクストメディア	川平 勝也	豊見城市
大 漁	87x75	平面	油彩	奥住 玉枝	那霸市
ファンタジー	184x182	平面	油彩・木くず	嵩原 武子	本部町
進みゆく農連市場 再開発工事現場	177x145	平面	油彩	金城 英男	那霸市
涼を呼ぶ辺戸岬	116x132	平面	油彩	普天間 新	八重瀬町
穏やか日和(宮城島)	130x162	平面	油彩	仲本 潤一郎	沖縄市
evolution II	182x92	平面	水彩	新里 久	西原町
Passage	182x92	平面	アクリル	當間 よしの	糸満市
暁のさなか	92x73	平面	水彩	泉 朝順	西原町
巡る想い	188x188	平面	水彩	仲程 悅子	うるま市
つながる	F130	平面	アクリル	仲座 包子	中城村
早春の山原路	171x139	平面	油彩	親泊 光子	与那原町
追憶「あらかちぐわ～」	200x160	平面	油彩	新垣 正一	那霸市
ゆいま～る	P50	平面	キャンバス	仲間 英子	読谷村
ことだまの泉	164x132	平面	アクリル	伊芸 匠志	うるま市
初夏の頃	30号	平面	油彩	下地 りえこ	那霸市
天才最高神様の 天才最高テーマ絵	130x194	平面	油彩	宮城 和邦	大宜味村
意 識		立体	銅・真鍮・洋白	丹羽 正淳	那霸市
Tree house	98x188	平面	アクリル絵具	瀬長 洋一	那霸市
躍動するヤンバルの大自然	F100	平面	油彩	砂川 秀勝	那霸市
表のうそ裏の真実	15.7x22.1	立体	油性ペン	武村 阿委華	那霸市
島人ぬ宝	90x138.5	平面	石膏版画	新屋敷 孝雄	読谷村
The Cut of Reality	43x80x51	立体	鉄	亀田 亜弥	那霸市
The Memory in Spring	26x16x21	立体	鉄	亀田 亜弥	那霸市
輝ける群像(新生)	F120	平面	油彩	伊川 はるよし	糸満市
漁夫の砦(ブダペスト)	103x79	平面	油彩	大城 喜満	与那原町
にっこも・さっこも	162x162	平面	油彩	池原 茉江	嘉手納町
暮 色	F100	平面	油彩	大城 春信	那霸市
老樹の青春 若葉の頃	111x91	平面	水墨画	田里 桂子	沖縄市
黒いキューブの水平形態	35x90x40	立体	陶土	神村 吉次	那霸市
落書き帳1ページ目	86.7x71.6	平面	木版画	座喜味 盛亮	名護市
ハーモニー	112x159	平面	水彩	玉寄 貞子	豊見城市
beach party	185.6x186.4	平面	油彩	伊禮 亮	嘉手納町
斜光(がじゅまる)	80x40	立体	木(がじゅまる)	眞喜志 英夫	南風原町
「long dizziness」	F60	平面	アクリル画	赤嶺 史子	うるま市
名残り(区画整理を待つ)	69x57	平面	アクリル	宮平 富裕	宜野湾市
老 刻	185.5x95	平面	鉛筆	饒平名知健	西原町
FLOW 流れ	180x180	平面	アクリル	金城 由美子	豊見城市
樹VIII	166x115	平面	水彩	比嘉 博	南風原町
beach party	185.6x186.4	平面	油彩	伊禮 亮	嘉手納町
斜光(がじゅまる)	80x40	立体	木(がじゅまる)	眞喜志 英夫	南風原町
「long dizziness」	F60	平面	アクリル画	赤嶺 史子	うるま市
名残り(区画整理を待つ)	69x57	平面	アクリル	宮平 富裕	宜野湾市
老 刻	185.5x95	平面	鉛筆	饒平名知健	西原町
FLOW 流れ	180x180	平面	アクリル	金城 由美子	豊見城市

